

(別紙2-1)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270202478		
法人名	有限会社やなぎはら		
事業所名	グループホーム菜の花の家		
所在地	〒859-3151 長崎県佐世保市三川内本町308-6 (電話) 0956-26-3720		
評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ		
所在地	〒840-0015 佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号		
訪問調査日	平成20年10月10日	評価確定日	平成20年11月11日

【情報提供票より】 (20年9月18日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)17年 1月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 18人, 非常勤 0人, 常勤換算	14.21人

### (2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	1 階建ての	1 ~ 1 階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	6,000+実費 円
敷 金	(有)(100,000円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ - 円
	または1日当たり	- 円	

### (4) 利用者の概要 ( 9月18日現在 )

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	- 名	要支援2	- 名		
年齢	平均 87 歳	最低	77 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	三川内病院 奥田医院 岡本歯科診療所
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、三川内駅近隣に位置し、2ユニットが木造平屋建て一棟の中で運営されています。敷地には駐車場や菜園が十分な広さで確保され、菜園では、入居者のご家族と共に育てた色々な野菜が収穫されています。建物は、臭気対策や災害対策など様々な工夫が施されており、全国からの見学者も多い状況です。そのような環境の中で管理者及びスタッフは、ご利用者を人生の先輩、ホームを家庭の延長と位置付け、理念にある「明るく、のびのびと、あるがままに」の実現を目指した支援を展開されています。ご利用者は、スタッフの見守りの中、本を読んだり、テレビを見たり、お話をしながら、各々のペースで過ごされています。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) <b>改善に向け計画的に取り組まれています。</b> 前回の外部評価結果に基づき、PDCAサイクル改善シートを活用した改善活動及び評価見直しが行われています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) <b>スタッフ全員で評価に取り組み、課題の共有に努められています。</b> 自己評価を課題の共有の機会と捉え、スタッフ全員で自己評価を実施されるなど、質の向上や改善に向けた姿勢が見受けられます。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) <b>会議内容の充実を目指した継続的取り組みを期待します。</b> 運営推進会議は、ホームの努力により参加メンバーや開催頻度が充実してきた段階です。今後は定期的継続的開催と内容の充実が求められます。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) <b>ご家族の意見を聴取する姿勢がうかがえます。</b> 意見箱の設置や家族会の発足など、ご家族の意見の聴取に向けた積極的な姿勢がうかがえます。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) <b>積極的な活動が見受けられます。</b> 町内会に加入し、積極的な働きかけが行われています。町内総会でのホームの現状報告や町内清掃への参加など地域の中のホームとしての活動が実現されており、教育機関との交流も図られています。また、町内行事への参加のほか、災害時の協力依頼も行われています。

(別紙2-2)

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、家庭的な雰囲気の中で、また地域の中で、ご利用者に「明るく、のびのびと、あるがままに」過ごしていただきたいという思いを込め作成されています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフの意見を明文化する形で作られた理念は、会議の中で周知されており、「家庭の延長線上にある生活の実現」や「ご利用者一人ひとりの歴史を重んじた対応」といった表現を用いて実現を目指されています。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内総会で開催毎に現状報告を行うなど積極的に地域との交流を図られています。中学校からの訪問もあり、町内清掃にはスタッフとご利用者が共に参加されるなど、地域の中のホームとしての位置付けを大切にされていることがうかがえます。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、その意義の理解の浸透と課題の共有化を目的に、スタッフ全員で取り組まれており、評価結果についてもPDCAサイクルシートにより改善に向けた活動が展開されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事録から積極的な意見交換が行われていることが読み取れますが、2～3ヶ月に一回といった目標頻度での開催には至っていない状況です。現在、参加メンバーの構成について検討され、より良い会議になるよう図られている状況です。	○	開催頻度や内容の充実を図り会議をより良いものにしたいといった思いがうかがえます。まずは、参加メンバーについて理想の形に一步近づけたとのことでしたので、今後に期待いたします。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の長寿社会課には、月に一回以上訪問し情報交換や相談などを行い、必要に応じて助言や指導を受けられています。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご利用者の状況などは、ご家族の来訪時に報告され、来訪が少ないご家族には、電話や手紙、メールなどを活用し報告されています。金銭管理やスタッフの異動などの報告は、書面やホーム便りを活用されています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や家族会の発足など、ご利用者やご家族の意見を聴取する姿勢がうかがえます。また、ご家族来訪時の意見の聴取にも努められています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの離職時など応急処置的にユニット間のスタッフの異動が生じる場合がありますが、基本的にはユニット毎にスタッフを固定して運営されています。また、行事などを合同で行うことで、ユニットを越えてご利用者とスタッフの馴染みの関係が構築できるよう考慮されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については、スタッフ向けに情報提供がなされるなど、受講を促す仕組みが採られています。また、スタッフの経験などを踏まえた計画的な研修受講も促されています。研修受講後は、研修報告書が作成され会議で報告することで、情報の共有も図られています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者レベルではありますが、グループホーム協議会を通じた同業者との交流が行われており、会議の時間帯の変更など、協議会で得られた情報をもとに改善を図られた事例などもあります。しかし、スタッフレベルでの同業者との交流は、まだ実現されていません。	○	管理者レベルに止まらず、スタッフによるホーム間の相互見学など積極的な取り組みにより、質の向上やスタッフのスキルアップにつなげる活動も期待します。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にご本人やご家族の状況に応じて面会され、見学の受け入れも行われています。その際の記録も残され、入居直後のケアに役立てられています。また、入居直後はご家族との連絡相談を密に行い、その情報をケアに活用されています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフは、ご利用者を人生の先輩や家族に近い存在として、人と人の関係づくりを目指されています。また、ご利用者の笑顔や気遣い、感謝の言葉などを励みに日常的な関わりを大切にされています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、しぐさや表情なども重要な要素と捉えて意向の把握に努められており、スタッフの気付きなどについては、介護記録に残されています。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人やご家族等からの情報及びスタッフの気付きなどを基に、ケアプラン会議により意見が集約され介護計画が策定されています。作成された計画は、スタッフに閲覧しご家族に説明同意を得て、確定されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の変更はご利用者の状態が落ち着かれていることもあり、定期的な実施には至っておりません。また、随時の計画変更についても、現状申し送りや会議の中で共有され、計画書の変更には至っておりません。	○	ご利用者の状態が落ち着かれている中でも、些細な変化やスタッフの気付きによる計画の変更が行われているようです。スタッフ及びご家族と計画を共有するという意味からも今後は介護計画書への追記や削除などを含む定期及び随時の見直しの徹底を期待します。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者はそれぞれ年2回ほど希望の場所へ外出される他、リハビリテーションを受けられたり、往診や訪問理美容も活用されています。また、ホームにご家族が宿泊されるケースもあります。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご利用者等の希望により選定され、往診等が行われています。検査結果などは、ご利用者別にファイリングされスタッフ間で共有される仕組みがあります。これらの記録類は、支援に役立てられる他、ご家族への情報提供にも活用されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療的な連携は協力病院と十分に図られているようですが、方針については重度化や終末期対応に関する指針の案が作成されている状況で、まだ外部には公表されていません。ご利用者の終末期等への意向については、出来る範囲で意向に沿うといった状況です。	○	ご利用者及び関係者に対し、事業所としての重度化や終末期対応の方針を明確にした上で、入居の際及び状況に応じた話し合いの場を持つことが必要です。話し合いの結果は記録に残し、ご利用者を含めた関係者間の方針の共有に役立てられることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いや対応など、ご利用者のプライドに対する配慮が見受けられます。入居者の書類等については外部の方に見えないように保管され、個人情報の利用同意書も整備されるなど個人情報保護への配慮も見受けられます。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりや都合を優先せず、ご利用者の意向を把握し対応するよう心掛けられています。ご利用者は、共用スペースや居室においてテレビを見たり読書をしたりしながら思い思いに過ごされています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、ご利用者の嗜好や栄養バランス、旬の食材などに配慮し、ご利用者と相談しながら作成されています。食事はユニット毎に異なるメニューが準備され、お米についても産地をセレクトしながら注文されるなど細かい配慮がうかがえます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、時間帯や回数及び入浴剤などご利用者の希望に応じた対応に努められています。入浴に注意が必要な場合については、介護計画に反映させスタッフ間での共有に努められています。異性による入浴介助については、ご利用者の了解を得て実施されています。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者の生活歴や習慣などの情報を活用され、食事の準備・家庭菜園などの役割や編み物・読書・ぬりえ・買い物・散歩などの楽しみごと、気晴らしの支援に努められています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご利用者の状態や季節的な配慮のもと、散歩や買い物など外出に向けた支援が行われています。外出の状況は、ホーム便りにより確認することもできます。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠については、安全面に配慮し、ご家族の了解を得た上でオートロックとされています。外出希望者にはスタッフが付添い支援されており、スタッフ数が確保できる時間帯には玄関を開放されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	設備面では、スプリンクラーやオートロック一斉解除の設備も備わっており、地域への協力依頼も行われています。訓練は、年2回の消防訓練が行われていますが、夜間想定では実施されておらず、地震や風水害対策は事業所の課題として把握されています。	○	夜間想定での訓練や必要品の準備など、地震や風水害などを含めた様々な災害対策を期待します。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立については、スタッフが栄養バランスに配慮し作成されており、糖尿食などについては医療機関の指導を受け対応されています。食事摂取量は記録を残し管理されています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは、天井が高く窓も大きいため開放感があり、近所の方から頂いた季節の花々や観葉植物などが飾られています。建物の構造上の工夫もあり、臭いなども感じられません。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込み品は自由で、馴染みの品などが持ち込まれています。掃除は毎朝行われており、掃除の際に換気も行われています。また、仲の良いご利用者同士が居室をお互いに訪問し合う関係性も構築されています。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票を添付すること。